

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 299

2017(平成29)年3月24日(金)発行

＜東日本大震災・福島第一原発事故から6年＞◇鎮魂と地域再生への願いを込め、3月10・11日夜、市内5カ所、アーカイトの光で“原町無線塔”を再現する「南相馬光のモニュメント」が開かれ、「無線塔の記念誌」も発行されました。◇3月23・24日の2夜、NHKテレビドラマ『絆～走れ奇跡の子馬』が放映。大震災で被災した馬の生産牧場を営む家族を描き、相双地方や野馬追祭を激励する。今年の相馬野馬追祭は7月29・30南相馬市で神旗争奪戦・31日。



《自民党改憲草案を考える⑪ 24条家族のあい方》

憲法が道徳に口を出すのは、よけいなおせっかいです

24条に「家族条項」を新設・古い価値観を復活・国の責任放棄も

自民党草案の24条

(家族、婚姻等に関する基本原則)
 第二十四条 家族は、社会の自然かつ基礎的な単位として、尊重される。家族は、互いに助け合わなければならない。
 2 婚姻は、両性の合意に基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない
 3 家族、扶養、後見、婚姻及び離婚、財産権、相続並びに親族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。

現行憲法の24条

第二十四条 婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。
 ② 配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。



24条を書き入れた女性
 ベアテ・シロタ

○七十年前、GHQの憲法草案作成の際、この24条の規定を憲法に盛り込んだのが、当時22歳のベアテ・シロタです。○彼女はウィーン生まれのアメリカ人で、5歳で来日して10年間を過ごしますが、日本女性の地位の低さを実感して、熱心に「男女同権」や「婚姻は両性の合意のみ」という規定を第24条として成立させました。

▲＜右＞が現在の憲法24条、＜左＞が自民党改憲草案の24条

- ◆「個人」よりも「家族」を社会の基礎的な単位という考え方は、戦前の「家・家族・家長(戸主)・天皇」中心の時代に逆戻りです。
- ◆「法は道徳に踏み込まず」という世界の常識を無視しています。
- ◆「家族が助けあえ」と規定し、国や政府が行うべき生活保護や子育て支援、介護支援などを後退させ、国の責任放棄です。
- ◆さらに今自民党は、『家族教育支援法案』という法律の国会提出をめざしています。家庭や家族の意義を強調し、「あるべき家庭像」を国民に押しつけようとしています。

この24条について、皆さんはどうお考えですか？

新刊紹介

『原発に抗う』 ¥2,160

本田雅和著 (『朝日新聞』南相馬支局長)
 緑風出版・文京区本郷2-17-5ツイン巷坂坂
 Tel03-3812-9420・Fax03-3812-7262



震災年の秋から『朝日新聞』に4年半、81シリーズが連載された「プロメテウスの罫」は、日本新聞協会賞などを受賞し、高く評価されています。この『原発に抗(あらが)う』は、事故の福島第一原発に最も近い朝日新聞南相馬支局長の本田雅和記者が、企画し執筆したシリーズを再構成しての発刊。事故で切り捨てられた福島の被災状況を克明に取材し、被災者が単に国や政府の言いなりになって受忍していたわけではなく、“原発に抗い” 抵抗し闘う姿を渾身の力で報告されています。

浪江町で牛320頭を飼い続け、国策や原発の不条理を訴え続ける吉沢正巳さんの「希望の牧場」、双葉町大沼勇治さんが考案した看板の「原発スローガン『明るい未来』」、川俣町山木屋渡辺幹夫さんの奥様の自殺を追う「妻よ」など。特に「希望の牧場」は2015年12月、《第21回平和・協同ジャーナリスト基金賞》を受賞。受忍を強いられている現在、読んでおきたい一冊です。

『憲法の創造力』 ¥780+税
 木村草太著・NHK出版新書

気鋭の憲法学者の憲法入門書。君が代不起立問題、裁判所と国民、一票の格差、柔軟な9条など具体的な記述です。

『原発事故6年目 現地情報から読み解く・ふるさと福島』


佐藤政男著・合同出版・¥1,600+税

著者は相馬市出身の薬学博士、福島県九条の会事務局員。震災時は徳島文理大学教授で、2012年に福島に戻り、故郷の現地から科学者として、被災の実態や多くのデータや資料をもとに、原発事故の現状や見通しを分析し、分かり易い。

『無情の神が舞い降りる』

志賀 泉著・筑摩書房・¥1,600+税

志賀は南相馬市小高区出身の太宰治賞作家。故郷の小高が原発事故で避難区域になり、寝たきりの母と暮らす男は…

 **推薦したい本をお知らせください。**

どう思われますか？ どれが真実か、虚偽か、もうこれ以上騙されたくありません！

- ①突然の“自衛隊の南スーダンからの撤収”。真実を言わない首相や稲田朋美防衛大臣…
- ②“共謀罪”は人の良心や思想を処罰、一般人も対象に。無能で稚拙な金田勝年法務大臣…
- ③“教育勅語”を暗唱させ、首相や安保法制を賛美する時代錯誤教育の森友学園問題…
- ④反民主主義で国粹・改憲・与党政治家のいつも背後にある“日本会議”の不気味さ…
- ⑤3.11政府追悼式で“原発事故”を言わない安倍首相。嘘や言い訳や恫喝ばかり…
- ⑥“震災・原発事故から6年”忘れさせようとする国・政府、まだまだ苦しんでいる国民…

＜事務局より＞

会報No.298の掲載許可をいただくため、松元ヒロさんに手紙を書くと、すぐに「いいですよー」との元気な電話。また原町に来てほしいですね。

飯館村、浪江町、富岡町も避難が解除に。“戻る、戻らない”、戻っても、これからも大変です。でも家族がいて元気なら、なんとかなります！

大震災・原発事故から6年。様々なことがあり過ぎて記憶も曖昧です。■「記憶されたものだけが、記録にとどめられる」(民俗学者宮本常一)、■「記録されたものしか、記憶にとどめられない」(作家佐野真一)という言葉があります。記録は大事なのに、防衛省が日報を廃棄したとか、財務省も森友の記録がないとか、国民は騙されませんよ。

＜「はらまち九条の会」事務局 市外局番はTEL 0244＞

- 会長: 平田慶肇(ひらた けいいち) TEL24-1211・FAX24-4825
- 事務局長: 早坂吉彦 〒975-0016南相馬市原町区仲町2-161 TEL22-0326
- 事務局次長: 山崎健一 TEL090-7527-5453 Eメール: yamazakiken1@gmail.com
- 会計: 井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892
- 石田賢二 TEL080-5556-4037 ○番場恵子 TEL22-0715 ○志賀勝明 TEL090-9530-5524
- HP: 大浦祥見 TEL24-0704 ○栗村文夫・桂子 TEL090-8851-6904 ○田中徳雲 TEL090-2796-4066

